

池上義信先生の活躍 [新聞報道]



〔東漢書〕

その時点では地形が複雑なので種類にめぐまれていて方だが、他のアフリカ地域、アフリカ、オーストラリア、南米の暗黒世界と同じ研究は未だくわれておらず、細胞学的実験などには小さな偏重のただが、実際にそこから得られたのが、実際には世界のよじこも見開かれてない新規が見つかるかも知れない。自ら時

未だ知られざる興味 　　外國では一般人の同好会も

外国では一般人の同好会も

コケの種類は約三万種

のは別に本意、正に「此の間」の
第一が西の「しこな」と
われがなつもしな。」
このは對照的の發音を示す。
いたゞ、つまわざと號り
がども、既に日本にしこな
と云ふのが、「三四種類」
が他の國に於けるから況へば

少年少女 新潟日報

1951年(昭26年)9月21日

金北山の「スゲ」

佐渡特有の珍植物

新潟高校園芸教授が昨春佐渡金北山眞光寺登山道付近で採集せる珍奇な植物「スゲ」は學界から注目されてゐるが、この種北海道帯で大教授秋山理學士により金北山に因み學名「カルフクス・キンボクサネンシス」和名「佐渡カルンスゲ」と命名學界に發表された。これで昨年度中發表された佐渡產の新植物は七種となつた。

なほ相川中學校の池上致謙は分布上面白いものゝ多い事分量の豊富な事で斯道研究家の寶庫といはれる佐渡の「薦苔」につき且下熱心なる研究に没頭してゐるが採集した五百種中調査するのものは百八十種あり、このうち二十一種位は分布上特に珍らしく、調査の完了を待つて公表するはず。

東京朝日新聞

1936年(昭11年)2月8日

東京朝日新聞

1934(昭9年)12月25日

珍らしき筆麗種
刈羽の内郷村別山は……
學界の貴重な寶庫
名をササ、ナイゴウエンシスと號定し又本州で唯一のオクエゾサザが内丘池内にモガミザサが繁茂する道沿に聚落してゐること等も珍しく更に後谷地内に新種とおぼしき自生のササが品あり引取る所まで現中で獨士教育上大なる收穫を得るが故に保存運動が起されんとしてゐる
竹葉の原地として有名な刈羽郡内郷村別山は佐藤相川中學校附近山上、源氏の調査によりこれまで學界に知られなかつた新種が四品も認められた。また、山頂の苔原と見される巖場上、礫原の苔原と折紙をつけられた、この四品のササケササ、シヒヤササ、カリハササ、アラゲテシマササのうちアラゲテシマササは巖場上珍しいので中井博士が内地の地名に因んで草

珍らしき筆四種

刈羽の内郷村別山は……

學界の貴重な寶庫

名をササ、ナイコウエンジンズと決
定し又本州で唯一のオクエニザサ
が内地にそがミザサが繁
の道沿に繁茂してゐること等も珍
しく更に後谷地内に新種とおぼ
しき白生の飛が二品あり引領を取
究中で郷土教育上大なる収穫と宣
ばれ保存運動が起されんとしてゐ
る

渡りゆく湿地帯植物

-土地改良事業の普及で-

せめて写真標本に

新潟高池上教官が悲痛な叫び

産業経済新聞

1954年(昭29)9月21日

池上先生、ありがとうございました

第三章

あれは確か、飯豊山調査で湯ノ平小屋へ下りるときだったと思う。たまたま、雨に濡れたテントを担いで行くことになった。幾度かの飯豊山調査に加わったが、テントを担いだことはなかった。いつも他人任せだった。下りの急勾配で曲がるときに、樹木につかまりくるっとまわり、ぽんと降りた。ザックの上にくくりつけたテントが振られる。と身体も振られる。たまたま近くに居られた池上先生が、小生より大きく、重いと思われるザックを担いで一步一步確実に下って居られる。「下りの方が危ないから、気をつけて」と。さらに続けて「ブナ、ナラのこと、お願ひしますよ」と。一瞬、肩に食い込むテントの重さを忘れた。暑いのに冷や汗が…。疲れて到着した湯ノ平小屋では、宴の準備が整えられていた。迎えに来てくれた会員の方々がしつらえてくれていた。いつも以上にその夜の勉強会は盛況だった。酔い覚ましに外に出てあたりを眺めまわしたと

き、小生の頭の中はブナ、ナラのことで一杯だった。でも…、結局まとめられなかった。発展はなかった。たくさん の貴重な資料がありながら…。

それより以前、池上先生には、「じねんじょ会」発足すぐの頃、三川村の植物リストを作るときにご指導を受けた。原稿をお送りしてしばらくして、新潟南高校にお伺いしたとき、学校の仕事、先生ご自身の研究などで、大変お忙しいにもかかわらず、あちこちの多くの、古い資料なども調べてくださり、リストの補充や誤字は勿論、漢字の使い方まで細部に渡って丁寧に指導して戴いた。本当にありがとうございました。あれ以後、仕事のことでも何でも文章を書くときは、いつもそれを思い出しながら書いてきた。池上先生、本当にお世話になりました。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。